

「天地冥陽水陸齋儀」と「水陸無遮平等齋儀」

大正大学綜合佛教研究所 霜 村 叡 真

水陸会とは、施餓鬼会の一種とされ、水陸に飲食を散じて諸鬼を救済する法会をいう。現在の中国において最も盛大な仏教儀礼と言えるだろう。水陸会の盛行について語られることは多いが、そのすべてが水陸会の法会全体の在り方に必ずしも肯定的な見方のみとは限らない。仏教寺院が禪風を失い、寺院の維持費は水陸会の収入に頼るさまを憂える意見も紹介されているからである。¹¹⁾

水陸会に言及した牧田諦亮氏の論文によつて、その流れを追えば次の通りである。「水陸」の語は遵式（九六四〜一〇三二）の『金園集』が初出とされる。¹²⁾ 次いで、熙寧四年（一〇七一）の楊鏐の「水陸大齋靈跡記」において、梁武帝の時に、帝の夢枕に立った高僧が六道四生への供養を勧めたことを承けて、宝誌の奏上によつて金山寺に水陸会を興したという水陸説話の完成をみる。後に金山儀文による北水陸と呼ばれる水陸会の起源として知られるものである。その後では、蘇東坡による元祐八年（一〇九三）の「水陸法像讚」などでも、梁武帝の説話が定着し、水陸会が古くより行われていたとの認識のあったことが知られる。また、紹聖三年（一〇九六）の宗頤の「水陸縁起」にも儀文のあったことが記される。¹⁴⁾

『仏祖統紀』（一二二六九成立）の撰者南宋志磐は、同三十三巻に水陸齋の項をたてて記録している。¹⁵⁾ そして今日行われている水陸法会に用いられる儀軌は、志磐が編纂したものを雲棲株宏が重訂し真寂儀潤が彙刊したものと

に基づいている。南水陸と呼ばれているものである。⁽⁶⁾これに対し、元叟行端（一二五四〜一三三一）の語録に、勅旨を奉じて天地冥陽水陸大会を七昼夜に亘って齋僧千五百を以って修したとある。これはもともと虚設を多く用いる北水陸の場合であるという。⁽⁷⁾

以上の水陸会の状況は、株宏の随筆集『竹窓三筆』の「水陸儀文」に、株宏自身が記している。「金山寺の本も亦た前後錯雑して始終頭緒を見ず。」とそれまでの儀文を批判し、僧侶達もそれを整理せずに勝手気儘に儀文を作っているとしている。また道場も俗人の氣に入るように変わり、「俗中の看旗看春の如く足を交え肩を摩して男女混乱して・・・」と、本来の精神の失われたことを嘆いており、その中で志磐の儀軌のみが優れているとして、自らが重訂して世に出す動機を述べている。

北水陸の儀文の存在は現在まで知られていなかったが、本編で紹介する「天地冥陽水陸齋儀」は名前からすると北水陸のものと考えられる。それは、前述の行端の語録の中の「天地冥陽水陸大会」という名称がこの水陸齋儀と類似しているからである。

この書は写本で、韓国東國大學所蔵の本であり、コピーで入手した関係で不鮮明な所もある。また、同じく韓国で現在用いていると思われる『釈門儀範』中に「水陸無遮平等齋儀」があり、両者の対校表を以下に掲載するが、項目名、内容とも合致する点が多く、これもまた北水陸の系統と考えられるのではないだろうか。

本稿では、この両書を対照しつつ、その全体を紹介することにした。上段は「天地冥陽水陸齋儀」、下段は「水陸無遮平等齋儀」で、章毎に縦野線を入れる。旧字体、異体字は原則として現行の新字体とした。文章の区切り方はおおむね原本によるが、各章句の配置が非常に辛い体裁であったため、あまり原本のそれに縛られないことにした。コピーが不明瞭で判読出来なかった文字については？マークを入れた。

表中、ほぼ同じ内容の文章は出来るだけ上下を揃えて配置し、同一の文字はゴシック体にして見易さを図った。

通常、章のタイトルの一致するものが無い場合は空欄となるが、異なるタイトルでも本文が一致するものや、その逆の場合もあった。真言については、表記が異なるが内容が一致すると思われるものが大多数であり、煩雑を避けるためにゴシックにはせずに上下に並べるに留めた。

考察は次の機会に譲るが、「已」と思われる文字がかなり不統一なのは筆写の際の誤りであろうし、そうした例は他にも見出せそうである。真言の表記はその筆録の時期を知る手掛りになるかも知れず、そうした考察を次の課題としたい。多田氏は、前掲論文中、おおづかみな水陸会理解として、「日本の密教の十八道の儀軌と顕教の五悔の形式をもった懺法とを組み合わせ、六道四聖に配当しながら、施餓鬼法を修じて行く非常に大規模な法会」と総括している。今回の二つのテキストを分析することによって、そうした見解を更に深め、日本の尺度にとられない仏教理解を進められることが期待されるだろう。

[註]

- (1) 牧田諦亮「水陸会小考」(『中国仏教史研究 第二』大東出版、昭和五九年)より、法舫の論説など。
- (2) 牧田論文、二一六頁。
- (3) 『金園集』卅続蔵一〇一・二三六上。
また更に八〇〇年代中盤にまで遡れるという指摘もある。千葉照観「現中国で最も盛大な仏教儀礼―水陸会―」(大正大学総合佛教研究所年報第十五号、平成五年三月)三二頁、及び追記参照。
- (4) 楊鏢・蘇東坡・宗蹟らは、いずれも、嘉泰四年(一二〇四)の『施食通覽』(石芝宗曉編纂、卅続蔵一〇一・四一六)に納められている。
- (5) 大正蔵四九・三二一中

- (6) 多田孝正「中国仏教儀礼の現在とその思想背景——水陸会をめぐる」(『シリーズ・東アジア仏教第3巻 新仏教の興隆 東アジア仏教思想Ⅱ』より) 参照。
- (7) 語録とは、『元叟端禪師語録』(卍続蔵一四・一)を指す。牧田論文、二二六頁参照。
- (8) 多田論文参照。
- 使用テキストは次の通り。

「天地冥陽水陸齋儀」(2175)、竹庵(高麗)編、木版、「壬乱以後」刊、一巻一冊(五十四張)、番号は韓国東國大學中央圖書館の『古書目録』による。

「水陸無遮平等齋儀」は、安震湖編輯『釈門儀範』(一九三二初版、一九七六第七版、二巻一冊、一九八六年に大正大学天台学研究室へ崔昌植(法慧)氏寄贈)中、上編二四〇頁。

多田氏は論文中、千葉氏に韓国の水陸儀軌テキストの存在を示唆された旨記している。また筆者の本稿執筆について、多田氏には全面的に御指導を頂いた。この場を借りて御礼申し上げます。

儀軌比較表

<p>天地冥陽水陸齋儀一卷</p>	<p>水陸無遮平等齋儀</p>	<p>設會因由 第一</p>	<p>設會因由篇 第一</p>
<p>蓋聞 慶喜応期於焦面創起教之初基</p>	<p>夫 無遮齋者 尋乎本源 究乎帰趨 釈獅子最初垂教 梁武帝 追後勸儀 可謂 千古規模 万靈庇蔭 於此可以行 菩薩道 於此可以見 如來心 論其施則備乎三壇 詳其理則 該乎六度 故致梁皇感夢 秦主求哀</p>	<p>梁皇感夢 於神僧繼法筵之後軌 由是 法筵無滯 含識有帰 究親平等而蒙恩 凡聖普同而獲益 功勳最勝 利濟尤多 其為大事因縁 實是無辺功德 于夜</p>	<p>其為大事因縁 實是無辺功德 于夜 即有大檀信 某甲 伏為某事 興 平等慈 依遵水陸之殊科 啓建冥陽之勝會 伏願十方諸聖 三界群真</p>
<p>超出三界入聖流者位設於上</p>	<p>悟之者適識其涯底</p>	<p>蓋聞 靈源渺漭 性海洋洋 迷之者莫測其淺深 悟之者適識其涯底</p>	<p>詳天 聖壇既啓 仏事方陳</p>
<p>？？三界処苦輪者位設於下 入聖流者則無不普供 処苦輪者則無不追修 而以</p>	<p>俯賜加持 悉令円満 淨三業真言</p>	<p>仰三宝之？勲 資四住之薄祐 惠而不費 益而愈深 境有自他之殊 心絶免親之異 乃号曰 冤親平等 凡聖円融 水陸無遮法会耳茲者 將行儀式 別有後文 惟願大聖大慈 俯賜加持 悉令円満 欲建曼拏羅先誦淨法界真言 曩謨三滿哆没駄喃嚧達摩駄覩沙嚧 婆嚧怛麼矩含 先取塗香左持右塗真言 唵薩婆但他葛哆嚧駄麼尼娑頗囉拏 吽 金剛掌於心印誦淨三業真言 唵薩婆嚧戌駄薩嚧達摩嚧婆嚧戌度 含</p>	<p>唵 娑婆娑婆 修度含 娑婆娑婆 修度含 戒度塗筆真言 唵 我慕加 左羅迷罔幾 素魯素 魯 娑婆訶 三昧耶戒真言 唵 三昧耶 薩多饒</p>
<p>歡淨八方 第一</p>	<p>歡淨八方篇 第二</p>	<p>蓋聞 靈源渺漭 性海洋洋 迷之者莫測其淺深 悟之者適識其涯底</p>	<p>詳天 聖壇既啓 仏事方陳</p>

「天地冥陽水陸齋儀」と「水陸無遮平等齋儀」

霜村叡真

禪河浪靜非色而衆像參天
定水波清無聲而群音揭地
夫水也者

性含八德群萌尽獲於滋榮
味具百川万物咸蒙於潤沢
于夜云々 入弘誓海

興大悲心

承水陸之殊儀

建冥陽之勝會

茲者

淨壇既設 法事方行

欲迎諸聖以來臨故遷法水

須俛八方之清淨遍灑道場

滌除万劫之昏蒙

永獲一真之清淨

下有洒淨陀羅尼謹當宣念

菩薩柳頭甘露水

能令一滴灑十方

腥膻垢穢尽調除

令此道場悉清淨

曩讚三滿多沒駄喃阿鉢羅 二合

地三弥葛葛曩三弥三滿多努葛第鉢
羅 二合

氤帝尾戌底達摩駄觀尾戌駄寧沙訶

建壇真言

唵難多難多難智難智難多援哩莎賀

開壇真言
唵哆囉囉嚩特伽吒耶三麼野鉢囉
二合 吠舍耶吽
結界真言
唵摩尼尾惹曳達囉達囉吽吽沙賀

建壇真言
唵 難多難多 那地那地 難多婆
里 娑婆訶
結界真言
唵 摩尼美阿札 多羅多羅 吽吽
娑婆訶

發菩提心篇 第三
弟子某等 依 大乘經
甚深妙義
歸依仏 歸依法 歸依僧 (三說)
我今發心 不為自求
人天福報 緣覺聲聞
乃至權乘 諸位菩薩
唯依最上乘 發 菩提心
願与法界衆生
一時同得

阿耨多羅三藐三菩提
發菩提心真言
唵 母地地多 母多婆那耶 弭

切以
百和氣氤
六鉢飯郁
纒熟一炬之上
普薰諸刹之中
結 瑞霏以為台
聚 祥煙而作蓋

切以
法身不動凡有感知皆通
聖眼非遙故無求而不応
欲達十方之信
須伝五分之香
惟願
煙起成雲弥布於天堂仏刹

祝香通序 第三
祝香通序 第四

謹當宣念
南誦舍曼多 沒多南 唵 戸魯戸
魯 地多他多 般多般多 何那訶
那 我尼帝 吽娑吒

開壇真言
唵 娑我羅 那魯 多加多耶 三
摩耶 娑羅吠 娑耶吽

將 法水以加持
灑 道場而清淨
蕩 諸穢汚
祛 衆魔邪
凡 隨禱而感通
在 所求而成就
下有
灑淨護摩陀羅尼
謹當宣念

<p>風飄為瑞遍達於地府龍宮 既能感動於十方 故乃度脫乎群品</p> <p>今者焚香 有陀羅尼 謹當宣念</p> <p>願令普薰 遍周沙界 唵度波始契矩嚙嚙日哩吒沙賀</p>	<p>為雲為雨 興福興祥 十方諸聖無不開 三有衆生無不度</p> <p>今者焚香 有陀羅尼 謹當宣念</p> <p>願令普薰 遍周沙界 焚秀真言 唵 度婆時戒 九路婆我里尼 娑婆訶</p>	<p>祝香供養 第四</p>	<p>祝香供養篇 第五</p>	<p>戒香定香 慧香解脫香 解脫知見香 光明雲台</p> <p>供？方無尽一切三宝 周遍法界</p>	<p>戒香定香 慧香解脫香 解脫知見香 光明雲台</p> <p>周遍法界 供養十方無量仏 供養十方無量法 供養十方無量僧 又復供養十方無量真宰 三界一切万靈</p>	<p>伏願 見聞普薰証常樂 法界衆生亦如是 摩訶般若波羅密</p> <p>召請使者 第五</p>	<p>伏願 見聞普薰証常樂 法界衆生亦如是 摩訶般若波羅密</p> <p>召請使者篇 第六 (門外設座 修 五供養 及 錢馬之儀)</p>
<p>天地冥陽聖衆 空居水陸有情</p>	<p>以此振鈴伸召請 四直使者願遙知 願承三宝力加持 今夜今時來降赴 召請使者真言</p> <p>唵 薩嚩怛囉葛弭佉薩嚩歌野潑結？ 娑婆訶</p> <p>靈機莫測謂之神 妙用難思謂之聖 故遵仏勅 能赴人心 凡開万善之門 須仗五通之力 恭惟 四直使者 神功浩浩 聖德巍巍 執天上之符書 作人間之捷使 其來也雲行雨至 其去也電激雷著 地府天曹往返斯須之際 龍宮鬼城迴旋 忽之間 正直難欺 威靈可畏 託四洲之人事 奏三界之聖聰 是夜 以真実心 修純淨供 廣備香花而設席 獻陳品膳以開筵 上命諸聖於十方 下召群生於六道 無緣之慈雖厚未必垂臨 有感之懇既深故須礼請 今者 法筵肇啓 仏事方陳 先憑行牒以伝音 預假持符而准奏</p>	<p>以此振鈴伸召請 四直使者願遙知 願承三宝力加持 今夜今時來降赴 召請使者真言</p> <p>唵 步步里 加多里 多加多耶 娑婆訶</p> <p>無功日道 不測日神 凡開衆善之門 須仗五通之力 恭惟 四直使者 神功浩浩 聖德巍巍 執 天上之符書 作 人間之捷使</p> <p>威靈可畏 正直難欺 雖不示於声容 必昭彰於感応 于夜 即有大檀信 某甲伏為某事 恭依聖教 謹啓香壇 備 珍羞供養之儀 伸 道場請迎之礼 代願 上遵仏勅 下応人心 乘 雲馭以四來</p>					

<p>已敷玳席？候光臨 無違仏囑之遺言 幸滿人心之素願 前伸讚語 次展請詞 謹秉一心 先陳二請 一心奉請 今年今月 今日今時奉教靈驗持？ 使者 惟願承 三宝力降臨道場 衆和 香花請</p>	<p>赴 法筵而一会 前伸讚語 次展請詞 謹秉一心 先陳三請 一心奉請 今年今月 今日今時 奉教靈驗 持符使者 惟願承 三宝力 降臨道場 (香花請)</p>	<p>蓋聞 威神莫測 聖力難思 聞請命而高馭雲車 伏加持而光臨法会 如是使者 已屆道場 大衆虔誠 諷經安座</p>	<p>蓋聞 威神莫測 聖力難思 聞請命而高馭雲車 伏 加持而 光臨法会 如是使者 已屆道場 大衆虔誠 諷經安座 (諷 心經安座 伸 五供養後 宣牒) (祝願)</p>	<p>奉送使者 第七 上來文牒 宣誦已周 神德無私 諒垂洞鑑 且天地之靈祇甚衆 而幽顯之情緒頗多 非心力以能知 豈音聲而可及 須勞神用 發送啓文 願承三宝之威光 歷遍十方之世界 凡当所請 尽達至誠</p>	<p>奉送使者篇 第八 上來文牒 宣誦已周 神德無私 諒垂洞鑑</p>
<p>希無阻以無違 必応時而応願 茲者 既蒙靈享 更請從容 早離香火之壇 速赴雲霄之路 下有奉送使者陀羅尼 謹当宣念</p>	<p>茲者 既蒙靈享 更請從容文牒 幸謝於賽 持靈程 願希於馳赴靈場 故 吾仏如來 有奉送陀羅尼 用助威神 謹当宣念 奉送真言 唵 縛日羅 薩陀目叉目 開關五方篇 第九 (當 庭中設祭所 修疏迎請)</p>	<p>唵 囉日羅 穆叉目 開關五方 第八 以此振鈴伸召請 五方五帝願遙知 願承三宝力加持 今夜今時來降赴 普召請真言 南無步布帝哩伽哩多哩恒他葛多野 阿多野</p>	<p>以此振鈴伸召請 五方五帝願遙知 願承三宝力加持 今夜今時來赴会 普召請真言 南無 步步帝哩 迦里多里 多陀 阿多野</p>	<p>蓋聞 二氣昇沈 爰分六合 四維上下 乃備五方 其疆界之五分 有神祇而各主 是夜 捨有限財 建無遮会 若不開於五路 恐難集於万靈</p>	<p>蓋聞 二氣昇沈 爰分六合 四維上下 乃備五方 既 疆界之五分 有神祇而各主 是夜 即有大檀信某甲 伏為某人 捨 有限財 建 無遮会 若不開於五路 恐難集於万靈</p>

<p>由是 謹具香灯 先伸供養 切以 人天地獄 鬼畜修羅 未登聖位之流 豈有威神之力 經歷分野 慮有陣違 所以先告於五方 然後普伸於三請 惟願</p>	<p>由是 謹具香灯 先伸供養 切以 人天地獄 鬼畜修羅 未登聖位之流 豈有威神之力 經歷分野 慮有陣違 所以先告於五方 然後普申於三請 惟願</p>	<p>五方地主 五位神祇 大開方便之門 共濟沈淪之苦 將伸召請 願赴齋筵 謹乘一心 先陳三請 一心奉請五方五帝 五位神祇等衆各並眷屬 惟願承三寶力 降臨道場 衆和 香花請</p>	<p>五方地主 五位神祇 大開方便之門 共濟沈淪之苦 將伸召請 願赴齋筵 謹乘一心 先陳三請 一心奉請 五方五帝 五位神祇等衆 各並眷屬 惟願承 三寶力 降臨道場 (香花請)</p>	<p>切以 信心有感 精誠必応於神聰 慧鑑無私 部馭已臨於勝會 如是聖馭大衆虔誠 已降道場 輿經安座 開通道路真言 唵蘇悉地伽里惹縛理哆慕栗怛曳賀 曩賀曩吽</p>	<p>切以 信心有感 精誠心応於神聰 慧鑑無私 部馭已臨於勝會 並諸眷屬 允副群心 大衆虔誠 輿經安座 (誦) 大悲呪安座 伸 五供養後 入壇內 加持召請上位聖衆</p>
<p>召請上位 第十 以此振鈴伸召請 十方仏刹普聞知 願此鈴声遍十方 無辺仏聖咸來集 請諸如來真言 唵微布囉鉢囉黎黎杜嚕杜嚕吽吽 請諸菩薩真言 唵薩婆菩提薩埵那湮醯沙賀</p>	<p>召請上位篇 第十一 (宣疏奉仏如常) 以此振鈴伸召請 十方仏刹普聞知 願此鈴声遍法界 無辺仏聖咸來集 仏部召請真言 南無三滿多 没多南 唵 伊那伊 伽 伊惠伊惠 娑婆訶 蓮花部 召請真言 南無三滿多 没多南 唵 阿路力 伽 伊惠 娑婆訶 金剛部召請真言 南無三滿多 没多南 唵 縛阿羅 多勒伽 伊惠 娑婆訶</p>	<p>請諸賢聖真言 唵阿哥嚕目允薩哩嚩達哩摩拏阿訶 阿耨怛半那埵 奉迎車輅真言 曩謨悉地里也 四合 地尾 二合 迦南怛他?多?唵?日即儂你也 羯哩 二合 莎耶沙賀</p>	<p>蓋聞 三身四智 円明十号之尊 八藏五教 微妙一真之教 悲增智增之菩薩 有学無学之応真 帰依者 福聚河沙 見聞者</p>	<p>蓋聞 法身湛寂絶視聽而包含大虚 報体円明離方処而廓周沙界 遂乃 分形千億 垂化万方 三十二相以莊嚴 八十種好而具足 靈山演妙諸天雨於四花 印土談真大地搖於六震 慈雲広庇 法雨遐霑 三乘尽獲於滋榮 五趣咸蒙於潤沢</p>	<p>霜村叡真</p>

「天地冥陽水陸齋儀」と「水陸無遮平等齋儀」

霜村叡真

次及

性天万像 法海千波

開毘盧廣大之義門

照夷際幽深之宝？

三車載物同超火宅之鄉

五教応？尽入帝珠之網

洞明權矣

示有筌蹄

十方之所帰依 三界莫非迴向

次及

大衆五行 十聖三賢

行二利於塵邦 証雙空於曩劫

或有一生補処演不退之洪音

或有六度法門資進修之淨業

慈悲無碍 善巧難思

積寶粮而上趣菩提

興行願而下攏群品

次及

部行麟喻 辟支仏陀

了無明老死之縁 觀春夏秋冬之景

独修独証出興於無仏世中

現變現通行化於有情界内

真空密照 妙定孤円

雖於大法器難当 猶以中乘根取証

次及

応真羅漢 住世聖僧

雖証理而後有永無

罪消塵劫 有求皆応

同 万卉之春風

無願不従

若 千江之秋月

受仏勅而留形不滅

或居国土行高故鬼神欽

或住山嶽德勝故龍降虎伏

隨縁三界 応供四洲

為末世之福田

作群生之依仗

今乃

梵音震地 法楽掀天

陳四禪天界之上蓋

獻三島仙源之異果

伏願

他心遠鑑 慧眼遥観

運無縁之大慈 愍有情之微懇

暫辨宝界 略降香筵

謹秉一心 先陳三請

一心奉請 塵塵刹刹 刹塵塵刹

十方三世

仏陀部衆 大毘盧仏 盧舍那仏

釈迦文仏 阿弥陀仏 一切常住

三仏円融 十身無碍 一切常住

真如仏宝 如是仏宝

無量無辺 一一周遍 一一塵刹

願垂慈悲 光臨法会 咸作証明

今則

梵音震地 法楽掀天

食陳香積之珍羞

果獻仙源之異味

伏願

他心遠鑑 慧眼遥観

運無縁之大悲 愍有情之微懇

不違本誓 咸降香筵

謹秉一心 先陳三請

南無

一心奉請 塵塵刹刹

十方三世

三仏円融 十身無碍 常住一切

真如仏宝 三大斯融 甚深法宝

十玄具足 常住一切 常住一切

三明已証 二利円成 常住一切

清淨僧宝 如是三宝

無量無辺 一一周遍 一一塵刹

願垂慈悲 光臨法会 恭請証明

<p>普同供養</p>	<p>一心奉請 塵塵刹刹 刹刹塵刹 十方三世 達摩部衆 大華嚴經 大涅槃經 大般若經 大宝積經 三大斯融 十玄具足 一切常住 甚深法宝 如是法宝 無量無辺 一一周遍 一一塵刹 願垂慈悲 光臨法会 咸作証明 普同供養</p>	<p>一心奉請 塵塵刹刹 刹刹塵刹 十方三世 僧伽部衆 普賢菩薩 文殊菩薩 阿難尊者 目連尊者 三明已証 二利円成 一切常住 清淨僧宝 如是僧宝 無量無辺 一一周遍 一一塵刹 願垂慈悲 光臨法会 咸作証明 普同供養</p>	<p>切以 大慈普被 円覚無方 從本願以興悲 示權形而赴感 茲者 ?? 滿路 凡蓋盈空 天龍隨馭而雲馳 釈梵雨花而風墜 声聞後擁 菩薩前驅 如登化母之階 似赴拔龍之会 如是三宝 已降道場</p>
<p>普同供養 (香花請)</p>			

<p>大衆声鉢 奉迎赴浴 ?? 炉? 引 大衆声致後隨 闍梨振鈴誦淨 路吸引入浴室 淨路真言 唵蘇悉帝囉左哩多囉羅左哩多囉母 羅多曳左羅左羅滿多滿多賀邦賀邦 吽泮吒</p>	<p>讚歎灌浴 第十二</p>	<p>詳夫 蓮不著泥 珠本無垢 現相示物故彰解脫之池 称理設言亦名功德之水 雖如來 六塵無染 三昧有光 乞食於王舍城中仍掃洗足 成道於泥蓮河側乃入浴身 皆為</p>	<p>利益凡情 建立仏事 茲者 謹嚴浴室 特備香湯 希衆聖以垂慈 愍群生而納浴 下有灌沐之偈 大衆隨言後和 我今灌沐聖賢衆 淨智功德莊嚴衆 願諸五濁衆生類 当証如來淨法身 唵底沙底沙僧伽莎訶</p>
			<p>引聖帰位 第十三</p>

「天地冥陽水陸齋儀」と「水陸無遮平等齋儀」

霜村叡真

<p>切以 浴身成道彰瑞彩於泥蓮 洗足安禪著遺風於舍衛 是以 淨花布彩蘭湯奉無垢之身 妙觸宣明法水蕩有情之界 伏希聖衆 重運慈悲 既愍物以無勞 必示權而有作 請離香浴 當赴淨壇 高坐道場 普霑香供</p>	<p>獻座安位 第十四 原夫 珠璣校飾 宝結莊嚴 獻花髮之妙衣 見塗香之勝地 牛頭栴檀之氣密結淨壇 瑪瑙珊瑚之珍純嚴妙座 用黃金而界交通 以青蓮而盛滴香 建種種微妙之幢 布重重光明之網 散于仏上仍有天華 懸於空中亦成雲蓋 惟聖賢三昧之力 有靈通十力之威 瑞相現於諸天 光明照於大施 今乃 如來菩薩 緣覺声聞 同臨清淨之華筵 各就莊嚴之宝座 下有獻座之偈 大衆隨言後和 為利諸有情 令得三身故</p>	<p>獻座安位篇 第十二 切以 道場冰潔 聖駕雲臻 既從有感之心 必副無私之望 茲者 十方法界</p>
--	---	---

<p>清淨身語意 掃命礼三宝 唵薩嚩沒駄達摩僧伽喃曩謨窣覩帝</p>	<p>妙菩提座勝莊嚴 (云云) 普礼三宝篇 第十三 切以 江月舒輝 無幽不燭 仏身赴感 有願必從 衆生以 三業掃誠 諸聖乃 六通垂鑑 由是 敬焚牛首 高震魚音 虔恭瞻想 十方信礼 常住三宝 一心頂礼 尽十方 常住一切 仏陀耶衆 一心頂礼 尽十方 常住一切 達摩耶衆 一心頂礼 尽十方 常住一切 僧伽耶衆 為利諸有情 令得三身故 清淨身語意 掃命礼三宝</p>	<p>召請中位 第十六 与十念天藏持地地藏後宣?聖号 下称王字 以血振鈴伸召請 三界四府普聞知 願承三宝力加持 今夜今時來降赴 召請三界諸天呪</p>	<p>召請中位篇 第十四 以此振鈴伸召請 三界四府普聞知 願承三宝力加持 今夜今時來降赴 召請三界諸天呪 唵 三曼多 阿迦羅 鉢里布羅里</p>
--	---	---	--

迦咩洋吒

召請五通諸仙

唵薩婆訖利知耶羯摩婆囉那瞿多曳
莎訶

召請一切天龍呪

唵阿鼻婆摩耶囉日隸達囉達囉呼

召請一切善神呪

唵商揭隸 二合 摩賀穆滿焰莎訶
召請焰摩羅王呪

唵薩婆焰摩囉闍第毘耶莎訶 已上

呪各三遍

切以

天光下映 瑞氣上凝

聖凡之境不殊 人天之路相接

上來壇內 已安賢聖之尊

次至??

普召天仙之衆 夫天衆者

始分六欲 上過四禪

切移夜

覲?他

摩之異名 化之殊号

拋須弥之四架猶是地居

超究竟之一天方為空界

其間

水晶布地 火齊起城

樂音於空中自鳴 人物或樹間相戲

思衣衣至 想食食來

多迦多迦 咩縛吒

召請五通仙人

唵 薩婆訖利知耶 羯摩婆囉那
求多曳 娑婆訶

召請大力善神呪

唵 俱魯多 薩婆提婆耶 娑婆訶

切以

天光下映 瑞氣上凝

聖凡之境不殊 人天之路相接

上來獻座 已安佛法僧尊

今復傳香

普召天仙神衆 夫 天仙神衆者

按經所說 感果不同

或 實報以酬因

或 權形而忘跡

或 修善業

或 修難量

或 各掌靈司

浩浩而

或 神莫測

次及

壽命則歲月無窮 快樂則塵沙莫喻

遊空天衆 一切星君

或虛空藏之所司 或熾盛光之所統

巡環世界忘禍福於人倫

軼逸須弥舒光輝於晝夜

功參造化 道合乾坤

群振仰荷於生成

万物咸蒙於覆護

次及

五通淨行 一切真仙

不依正覺之修 別有妄生之念

固形存想久修正行之因

念仏人悲先知靈駕

堅志鍊心自得長生之理

遊山林下 住海島間

雖能壽歷於千春 未免輪迴於三界

次及

虛空地界 一切神祇

或位鎮於坤維 或功參於乾造

英靈有感如日月之當天

正直無私若權衡之在掌

上扶國祚 下祐生靈

雖無言教以示人

率以威神而接物

次及

瑤魔羅界 諸位冥君

「天地冥陽水陸齋儀」と「水陸無遮平等齋儀」

霜村劔真

尊居之十殿巍巍 參列之諸司濟濟

高懸業鏡照已往之愆瑕

昭示憲詞明未來之因果

至明至聖 無究無偏

開衆生教化之門 示菩薩慈悲之意

並願

遙聞讚語 各運歡心

伏三宝之慈光 現五通之妙用

暫辭天宮地府 略別水國陽間

前迎兮鳳管鸞笙歌雅樂

後從兮金童玉女玉蓋殊纓

擁片片之香雲 散紛紛之瑞萼

匡諸部從 降赴香筵

謹秉一心 先陳三請

一心奉請 塵塵刹刹

利塵塵刹 十方三世

天道等衆 欲界色界

無色界中 天主天男

天人眷屬 日月天子

北極真君 大星小星

普天列曜 無及法界

十類大仙 苦行特明

真仙等衆 如是等衆

無量無邊 一一掌握

一一塵刹 願承仏力

同降道場 咸被慈光

伏願

遙聞讚語 各運歡心

仗 三宝之慈光 現 五通之妙用

暫辭天宮地府 略別水國陽間

王乘則 玉華金輿

臣駕則 紅霞彩霧

引諸部從 降赴香筵

謹秉一心 先陳三請

一心奉請 塵塵刹刹

大權庇跡 隨業受身

一切天王 一切天后

一切諸天 龍神八部

娑婆內外 主宰造化

一切天官 一切星君

一切天仙神祇 一切婆羅門仙

一切地府 一切水府

一切官曹 諸鬼神等

一切真宰方靈 一切官僚眷屬

如是等衆

普霑法供

一心奉請 塵塵刹刹

利塵塵刹 十方三世

神道等衆 守護持呪

金剛密跡 四王八部

護法神衆 娑竭羅等

諸天龍君 阿素洛王

各并眷屬 當境遐迩

幽顯神祇 主宰靈聰

官僚等衆 如是等衆

無量無邊 一一掌握

一一塵刹 願承仏力

同降道場 咸被慈光

普霑法供

一心奉請 塵塵刹刹

利塵塵刹 十方三世

冥道等衆 瑤魔天子

諸位冥君 十八獄王

六曹官典 三台八辟

四相九鄉 案列諸司

一切宰輔 諸鬼王等

五道將軍 卒吏諸班

阿旁等衆 如是等衆

無量無邊 一一掌握

一一塵刹 願承仏力

無量無邊 一一掌握

一一塵刹 願承仏力

同降道場 咸被慈光

普沾供養

一一塵刹 願承仏力

<p>同降道場 威被慈光 普霑法供</p>		<p>專心合掌 徐步前行 大衆無勞 再伸迎引</p>	<p>天仙禮聖 第二十二 謹白 天仙地祇冥府官僚等衆 既受虔請 已降香壇 當除放逸之心 可免慳懃之意 投誠千種 懇意万端 想佛法僧以難逢 策身語意而參礼 下有普礼之偈 大衆隨言後和 歸命十方調御師 演揚清淨微妙法 一乘四果解脫僧 願賜慈悲哀憐受 一心頂礼南無尽虚空遍法界十方常 住一切仏陀耶衆 衆和 惟願慈悲受我頂礼 一心頂礼南無尽虚空遍法界十方常 住一切達摩耶衆 衆和 惟願慈悲受我頂礼 一心頂礼南無尽虚空遍法界十方常 住一切僧伽耶衆 衆和 惟願慈悲受我頂礼 為利諸有情 令得三身故 清淨 身語意 歸命礼三寶 唵薩嚩沒駄達摩僧伽喃曩謨窣都帝</p>
<p>夫 他心不碍虔精即知 通力非遥懇祈必成 彈指於斯須之際 廻旋於倏忽之間 既從有感之心 必副無私之望 茲者天仙地祇冥府官僚等衆已降道 場大衆声鉢奉迎赴浴</p>		<p>天仙禮聖 第二十二 謹白 天仙地祇冥府官僚等衆 既受虔請 已降香壇 當除放逸之心 可免慳懃之意 投誠千種 懇意万端 想佛法僧以難逢 策身語意而參礼 下有普礼之偈 大衆隨言後和 歸命十方調御師 演揚清淨微妙法 一乘四果解脫僧 願賜慈悲哀憐受 一心頂礼南無尽虚空遍法界十方常 住一切仏陀耶衆 衆和 惟願慈悲受我頂礼 一心頂礼南無尽虚空遍法界十方常 住一切達摩耶衆 衆和 惟願慈悲受我頂礼 一心頂礼南無尽虚空遍法界十方常 住一切僧伽耶衆 衆和 惟願慈悲受我頂礼 為利諸有情 令得三身故 清淨 身語意 歸命礼三寶 唵薩嚩沒駄達摩僧伽喃曩謨窣都帝</p>	<p>天仙禮聖 第二十二 謹白 天仙等衆 既受虔請 已降香壇 當除放逸之心 可免慳懃之意 投誠千種 懇意万端 想佛法僧以難逢 策身語意而信礼 下有普礼之偈 大衆隨言后后和 普礼十方無上尊 五智十身諸仏陀 普礼十方離欲尊 五教三乘諸達摩 普礼十方衆中尊 大乘小乘諸僧伽</p>
<p>加持澡浴 第十八 詳天 淨三業者無越乎澄心 潔万物者莫過於清水 是以 謹嚴浴室 特備香湯 希通力以昭彰 愍精誠而納受 洗除垢穢 濁淨身心 得適悅之清源 祛諠煩之熱惱 下有沐浴之偈大衆隨言後和 我今以此香湯水 身心洗滌令清淨 灌沐一切天仙神 証入真空常樂鄉 庵底沙底沙僧伽莎詞 出浴參聖 第十九 惟願天仙地祇冥府官僚等衆 欲詣道場先參聖衆 請離香浴當赴淨壇</p>		<p>再白天仙地祇冥府官僚等衆 獻座安位 第二十一</p>	<p>再白天仙等衆 獻座安位篇 第十六</p>

沐浴方畢 參禮已周
 逍遙自在以無拘 寂靜安閑而有樂
 茲者
 香灯互列 花果交陳
 既設筵会以迎門 宜整容儀而就座
 下有安座之偈 大眾隨言後和
 我今敬設普嚴座 普獻一切天仙神
 願滅塵勞妄想緣 速円解脫菩提果

唵迦摩羅星賀沙賀
 召請下位 第二十二
 以此振鈴伸召請 冥途鬼界普聞知
 願承三寶力加持 今夜今時來赴会
 破地獄真言
 曩謨阿酒吒始地喃三藐三沒駄鳩致
 喃唯惹左曩嚩婆始地哩地哩呼

滅惡趣真言
 唵阿謨伽吠噓左曩摩賀母捺囉麼拏
 鉢納麼禿囉鉢囉 二合 鉢多野吽
 召餓鬼真言
 唵嚩曩嚩迦囉咄曳吶沙賀
 鉤召請惡趣衆真言
 唵薩哩嚩 二合 播野葛哩沙拳尾
 輸達那嚩囉三摩野吽吽
 普召請真言

既度三業 已禮十方
 逍遙自在以無拘 寂靜安閑而有樂
 茲者
 香灯互列 花果交陳
 既設法会以祇迎 宜整容儀而就座
 下有獻座之偈 大眾隨言後和
 我今敬設寶嚴座 奉獻一切天仙衆
 願滅塵勞妄想心 速円解脫菩提果

獻座真言
 唵迦摩羅 僧訶 娑婆訶
 召請下位篇 第十七
 以此振鈴伸召請 冥途鬼界普聞知
 願承三寶力加持 今夜今時來赴会
 破地獄真言
 南無 阿多始地南 三藐三沒多
 俱致南 唵 阿左那 娑婆始 地
 理地畢呼

滅惡趣真言
 唵 阿謨迦 尾盧左那 摩訶丹那
 羅 摩尼婆納摩 阿婆羅婆羅 末
 多耶 娑婆訶
 召餓鬼真言
 唵 即那即迦 移曳希 娑婆訶

普 召請真言

南無步布帝哩伽里多哩但他葛多野
 切以
 銀河浪徹 玉漏声催
 星辰耿耿而更深 宇宙沈沈而境靜
 當？
 牛香再熱 魚梵重宣
 三界之諸聖既臨 五姓之孤魂未集

蓋以
 二氣初剖 三？肇分
 一源本寂以無形 万物始生而有像
 夫像至衆 惟人最靈
 雖能情想得？ 爭奈寿夭斯異
 不論豪賤 無間智愚
 皆緣久昧於真源 未免空掃於陰界
 孤魂既逝 長夜可依
 不憑薦援之功 難脫沈淪之苦
 次及
 宿因不朽 冤債難逃
 或逢寇賊 或值刃兵
 以傷殘 而殞殺
 莫不
 填委溝壑 狼狽道塗
 聚殺氣以如雲 積枯骨而似雪
 遂使
 醜頭黃草遇青春而不生

那謨 步步帝里 迦里多里 多陀
 我多野
 切以
 銀河浪徹 玉漏声催
 星辰耿耿而更深 宇宙沈沈而境靜
 當可
 牛香再熱 魚梵重宣
 三界之 諸聖既臨
 五姓之 孤魂未集

塞下驚沙白日以常修
四時無礼 千載不封
誰恰劫劫之魂遊 或聽嗷嗷之思哭
乃至

殃纏疫癘 禍發仇讎
非唯天枉百端 亦乃冤殘万狀
故

藥師經說八九種之橫災
大悲經標十五類之惡死
多般名狀 是仏所宜
罪業尽以難逃 非慈濟而莫脫
今我

緇思曠劫 勤念衆生
既愍汝多值？災 又傷汝遍？？極
故茲殃禍 実可哀憐
由往世之愚癡 受長年之困餒
復有

？行頑逆 不務忠良
由生前積衆愆因 致死後處三塗報
夫三塗者

案經所說 受報不同
或鎖於鉄冢山間 或陷於金輪水際
皮毛相附除水草而何知
口面常燃思飲食而無得
斯疾斯苦 難忍難當

縱一寸心之所為

「天地冥陽水陸齋儀」

受百千劫之悽楚
驗其因果 莫問冤親
心未得於逍遙 但普伸於薦拔
今乃

運心平等 設食無遮
為汝豎引路神幡 為汝誦招魂密語
願承呪力 雲集道場
享甘露之珍羞 受菩提之戒法
將伸招請 別有詞文
謹秉一心 先陳三請
一心奉請

手擎宝蓋 身掛花鬘
導清魂於極樂界中
引亡靈向碧蓮台畔
大聖引路王菩薩摩訶薩惟願慈悲憐
愍有情降臨道場 衆和 香花請
一心奉請 四空四禪
三梵六欲 天人眷屬
業果酬尽 隨業感報
輪廻？趣

十方法界忘失知見一切天仙并從眷
屬惟
承三宝力 伏秘密語
今夜今時 來臨法會
下皆列此
一心奉請 位称世主 国号明王
承大宝而臨御八荒

夫 孤魂者 殞命不同
按經所說 異狀千般
細分則 異狀千般
略言則 橫災九種
如斯天枉 詎可名言
不憑薦拔之功 難得超昇之路
次及 三途滯魄 八難沈魂 其因也
縱 一寸心其果也

感 百千劫
入雖有路 出且無門
匪業尽而難逃 非 慈濟而莫脫
今乃

運心平等 設食無遮
為汝豎引路神幡 為汝誦招魂密語
願承呪力 雲集道場
享 甘露之珍羞 受 菩提之戒法
將伸招請 別有詞文
謹秉一心 先陳三請
一心奉請

摩塵刹刹 十方三世 國內國外
有姓無姓 帝王后妃 文武官僚
尊卑男女
一切人倫 五趣修羅 各及眷屬列
位仙駕

他方此界 十類孤魂
依革附木 一切鬼神
地府鄴都 大小鐵圍
根本近辺 一切地獄
河沙餓鬼 法界傍生
及与中陰 諸有情衆
知是等類 無量無辺
一一充塞 一一座刹
願承仏力 雲集道場
咸脫幽途 普霑法供 (香烟請)

霜村觀真

「水陸無遮平等齋儀」

列虎符而權衡四海

十方法界 古今先亡

帝主明君 后妃天眷

并從眷屬

一心奉請 職居寵宰 位処高堂

用一片忠孝之赤心

使万世伝名而不朽

十方法界 古今先亡

大臣輔相 忠義將師

并從眷屬

一心奉請 具通中有 宿業内無

不為山石之妨 得受香花之供

捨榮出家比丘比丘尼

式叉摩那沙弥沙弥尼

十方法界古今先亡苦行僧尼并從眷屬

一心奉請 業因三毒 識転四流

循殺盜以迷源 固貪婬而失性

今宵檀越其甲召請云々為首毘舍首

陀一切人倫并從

眷屬

一心奉請 金剛水際 鉄围山間

五無間獄 八寒八熱 火聚刃山

鉄網火城之流 銅柱鉄床之輩

十方法界 長夜燒然 阿鼻地獄

受苦衆生 諸有情衆

一心奉請 鐵湯炉炭 塘灰爆裂

刀兵屠裂 飲血剥皮 拔舌釘身

犁耕斧斫 灰河沸尿 寒氷淤泥

十方法界 八万四千 地獄道中

一切有情 并從眷屬

一心奉請 業因十惡 報受多般

昼塗穢汗以克飢 夜栖林巒而作宅

針咽嚙腹 焰口火頭 三十六部

恒沙餓鬼 十方法界 積劫飢虛

餓鬼道中 一切有情 并從眷屬

一心奉請 隨業稟類 逐報受生

自緣而万類千形 棲処而水陸空界

羽毛鱗介 転蛻飛行 含靈蠢動

巢穴微類 一切畜生十方法界

力勝相噉 傍生道中 大身微質

一切有情 并從眷屬 一心奉請

荒年儉歲 奔趁流移 他鄉餓死

別郡凍亡 老年無護 幼少無依

孤獨矻仃 抱苦扁魂 十方法界

飢虛凍餒 苦死生靈 無生孤魂

并從眷屬

一心奉請 業苦殺害 苦果病纏

久患卒中以亡身 撮痛酸疼而喪命

十方法界 久病纏身 苦死生靈

并從眷屬

一心奉請 宿冤對敵 兩陣相交

中槍中箭以亡形	遭刀遭劍以喪命
十方法界	軍陣殺傷
苦死生靈	并從眷屬
一心奉請	含冤抱恨
無伸訴以自刺而亡	負屈難言
憑何告以投苦而喪	
十方法界	負財欠命
自縊殺傷	投河落井
并從眷屬	苦死生靈
一心奉請	因中造罪
獸齒虫傷	車碾馬踏
牆崩屋倒	石欄巖摧
野火山水	顛沛失命
恐怖難逃	無救乏天
并從眷屬	一心奉請
為色相酬	因貨結恨
暗施毒藥以傷殘	明用槍刀而損害
方脈醫師	誤針灸療
爛腑天亡	十方法界
中藥身亡	苦死生靈
一心奉請	不務忠良
驅詣市曹	斬頭落地
牢獄堅囚	無由自伸
十方法界	臨刑赴法
苦死生靈	并從眷屬
一心奉請	三途纜免
	四大始為

受胎而始損獨立	臨產或子母俱喪
十方法界	墮胎落孕
苦死生靈	并從眷屬
一心奉請	不順仁道
神殺雷誅	霹靂而止
異境他鄉	海洗湖亡
寇賊橫災	刀杖加害
經營求利	大水漂溺
并從眷屬	苦死生靈
一心奉請	螢窓秀才
或赴選半路遭疾	鮑學書生
或失望而憂愁喪命	
州府郡果	軛賦典吏
孤館命終十方法界	疾病纏綿
渴乏天命	苦死生靈
一心奉請	冤讎報恨
師資互害	父子相誅
奴犯其主	夫婦不諧
六拍戲侮	雙六圍碁
交棒殘害	十方法界
苦死生靈	并從眷屬
一心奉請	業因深重
双盲卜士	壳卦山人
師巫神女	不分釈道
苦行高公	道士女冠
無家定処	怪語為行
	解？業士

十方法界	信邪倒見	苦死生靈
井從眷屬		
一心奉請	塵塵刹刹	四大部洲
十方三世	人道等衆	中国外国
有姓無姓	帝王后妃	文武官僚
僧尼儒道	士農工商	万類群分
各及眷屬	為亡入此	修齋施主
合道場人	九玄七祖	五族六親
多生師長	累世宗親	久近先亡
一切親屬	如是等類	無量無辺
一一克塞	一一塵刹	願承呪力
雲集道場	咸脱幽塗	普霑法供
一心奉請	塵塵刹刹	四大部洲
十方三世	孤魂等衆	天誅雷滅
神殘鬼排	身死法場	命亡囚獄
刀兵殞没	寇賊傷殘	疾疫流離
飢寒凍餒	火焚水溺	獸噬虫傷
樹折巖摧	牆崩屋倒	墮車墮馬
落孕落胎	非命夭殤	一切魂爽
如是等類	無量無辺	一一克塞
一一塵刹	願承呪力	雲集道場
咸脱幽塗	普霑法供	
一心奉請	塵塵刹刹	四大部洲
十方三世	三塗等衆	地府酆都
大小鉄圍	根本近辺	一切地獄
針咽巨口	大腹嗅毛	無財少財

一切餓鬼	胎卵濕化	羽毛鱗介
巨身微質	一切旁生	識神雖具
形質未分	六道傍來	諸有情衆
如是等類	無量無辺	一一克塞
一一塵刹	願承呪力	雲集道場
咸脱幽塗	普霑法供	
引詣香浴	第二十三	
惟願		
仏慈摂受	法力加持	
頓息貪嗔癡	同円戒定慧	
出六道輪廻之苦処		
入一路涅槃之慈門		
上来		
已憑仏力法力	三宝威神之力	
召諸法界	一切人倫	
泊無主孤魂	及有情等衆	
已届道場	大衆声	
請迎赴浴	迎引地上	
加持澡浴	第二十四	
詳夫		
久遭塗炭澡浴之事那聞		
常受飢虚香湯之縁未遭		
今則		
蘭湯已修	潔水具嚴	
濯糞劫之塵勞	蕩多生之罪垢	
祛除熟惱散肢骨之昏沈		
引詣香浴篇	第十八	
上来		
已憑仏力法力	三宝威神之力	
召諸人道	一切人倫	
泊無主孤魂	及有情等衆	
已届道場	大衆声	
請迎赴浴	(或誦大悲呪及般若心經亦得)	
加持浴篇	第十九	
(以下至	受位安座篇限	
見下篇五八)		

<p>潤沢肌膚獲身心之輕利 大小次序 男女分別 勿生爭競之心 宣起權折之意 下有沐浴之偈 大衆隨言後和 我今以此香湯水 濯沐孤魂及有情 身心洗滌令清淨 証入真空常樂鄉 唵底沙底沙僧伽莎賀 唵楊枝真言曰 唵拔折囉賀莎賀 唵觀觀麗矩魯矩魯莎賀 唵手面真言曰 唵縹曼多播囉述佛訶</p>	<p>持呪既周 化衣已遍</p>	<p>諸仏子 授衣服飾 第二十五 嚕主嚕莎賀 故吾仏如来有治衣陀羅尼謹当宣念 唵旃暮伽訶袖縛塞室 二合 隸主</p>	<p>諸仏子 授衣服飾 第二十五 嚕主嚕莎賀 故吾仏如来有治衣陀羅尼謹当宣念 唵旃暮伽訶袖縛塞室 二合 隸主</p>	<p>上来 沐浴既周 身心俱淨 所具冥衣物等謹仗如来真言加持化 少成多令仏子之衣皆称身形 不長不短 不窄不寬 勝前受用之衣 變成解脫之服 故吾仏如来有治衣陀羅尼謹当宣念 唵旃暮伽訶袖縛塞室 二合 隸主</p>	<p>加持化衣篇 第二十五 (化衣財真言) 授衣真言 着衣真言 整衣真言)</p>	<p>唵 楊枝真言 漱口真言 洗手面真言)</p>	<p>加持化衣篇 第二十</p>
<p>無衣者与衣覆鉢 有衣者棄故攬新 將詣淨壇 先調服飾 下有化衣真言謹当宣念 唵微莽羅莎賀 著衣真言 唵旃暮伽縛悉室 二合 隸捨那野 吽 整衣真言 唵三滴多婆駄囉拏鉢頭米吽登</p>	<p>三賢十聖他方此界運智興悲</p>	<p>孤魂礼聖 第二十八 上来為冥道有情引入淨壇已竟今当 礼奉三宝夫三宝者 十方空界法身報身化現身 五教慈門經藏律藏論議藏</p>	<p>加持礼聖篇 第二十一</p>	<p>諸仏子 既周服飾 可詣壇場 礼三宝之慈尊 聽一乘之妙偈 更?切 重整容儀 厭輪廻生死之因 求解脫真常之果 請難香浴 当赴淨壇 合掌專心 徐步前進 下有指壇真言謹当宣念 唵曳唵呬吠路左囊野莎賀</p>	<p>出浴參聖篇 第二十七 (指壇真言)</p>	<p>出浴參聖篇 第二十一</p>	

<p>切以</p>	<p>五果二乘天上人間除災降福 一心渴向瞻想尊顏 三業煇依和兩稽首 下有普札之偈大眾隨言後和 稽首十方調御師 三乘五教真如法 菩薩聲聞緣覺僧 一心歸命虔誠札 一心頂礼南無尽虚空遍法界十方常 住一切仏陀耶衆 衆和 惟願慈悲 受我頂礼 一心頂礼南無尽虚空遍法界十方常 住一切達摩耶衆 衆和 惟願慈悲 受我頂礼 一心頂礼南無尽虚空遍法界十方常 住一切僧伽耶衆 衆和 惟願慈悲 受我頂礼 為利諸有情 令得三身故 清淨身語意 歸命礼三宝 唵薩嚩沒駄達摩僧伽喃曇謨窣覩帝 謹白孤魂等衆 幸逢聖會 已礼慈尊 宜生罕遇之心 可免難遭之想 請離壇所 当赴冥筵 同享珍羞 各析妙道</p>
<p>(安座真言)</p>	<p>受位安座篇 第二十三</p>
<p>南無十方仏 南無十方僧 南無十方衆 南無十方法</p>	<p>仰承聖力 咸赴香筵 蘭湯既沐浴身心 法会已參礼賢聖 今以 普設斛食 嚴備冥堂 香花灯水以交陳 恭果珍財而間列 汝等 有位者依位而坐 無位者以頰相從 各各 尊卑遜讓 大小權忻 勿生鬪諍之心 宜起謙恭之意 下有安座之偈 大眾隨言後和 我今依教設華筵 花果珍羞列座前 大小宜依次第坐 專心諦聽演金言 唵摩尼軍荼利吽吽莎賀 祈聖加持 第三十</p>
<p>南無十方仏 南無十方僧 南無十方衆 南無十方法</p>	<p>切以 奉祠以蒲塞為饌聞於漢書 獻仏之蓮花不萎見于齊史 況今 淨壇既設 香供斯陳 微塵之刹在前 滿月之容降会 栴檀載蕪 蘋藻交羞 欲成供養之周円 須仗加持之變化 仰干悲智 俯賜証明 (次 四陀羅等如常)</p> <p>加持委供篇 第二十四 切以 香煙耿耿 玉瀾沈沈 正当普供十方 亦可冥資三有 茲者 栴檀再蕪 蘋藻交羞 欲成供養之周円 須仗加持之變化 仰干悲智 俯賜証明 (次 四陀羅等如常)</p>

<p>大威德真言 曩謨薩哩嚩怛他葛他嚩盧枳帝唵三 跋囉三跋囉吽 甘露水真言 曩謨蘇嚩婆之怛他葛多野怛的也他 唵蘇嚩蘇嚩鉢囉蘇嚩鉢囉蘇嚩沙賀 水輪觀真言 唵鍍鍍鍍(鍍?) 乳海真言 曩謨三滿多沒駄喃唵鍍 上四呪各 三七遍 普伸拜獻 第三十一 上來 加持既畢 供養將陳 願此香為解脫知見 願此灯為般若智光 願此水為甘露醍醐 願此食為法喜禪悅 乃至 幡花互列 茶果交陳 即世諦之莊嚴 成妙法之供養 慈悲所積 定慧所薰 以此香羞 特伸拜獻 香羞拜獻南無尽虚空遍法界十方常 住一切仏陀耶衆 衆和 惟願慈悲 受霑供養 香羞拜獻南無尽虚空遍法界十方常</p>	
<p>住一切達摩耶衆 衆和 惟願慈悲 受霑供養 香羞拜獻南無尽虚空遍法界十方常 住一切僧伽耶衆 衆和 惟願慈悲 受霑供養 普供養真言 唵葛葛那三婆嚩嚩囉嚩緊吽 普廻向真言 唵沙摩囉沙摩囉弭摩嚩婆囉摩賀左 乞囉囉吽 供聖廻向 第三十二 唱和偈畢諷大慈悲呪宣疏 我今敬設無遮會 以大願力普莊嚴 化供法味遍虚空 三宝聖賢哀納受 願諸三宝聖賢衆 常住不滅法輪 恒於苦海作舟航 广度有情登彼岸 上來 修齋情旨 已具敷宣 恭望聖慈 俯垂照鑑 伏願 三界九有念念証真 六趣四生新新作仏 修齋施主万善莊嚴 受薦亡靈九蓮化往 風調雨順 国泰民安 法輪常轉 祖灯永曜 然願</p>	

<p>堅窮三際 橫遍十方 等沐良緣 齊登覺岸 如常 十念</p>	<p>祈聖加持 第三十三 中位進供 南無十方仏 南無十方法 南無十方僧 大威徳真言 甘露水真言 水輪觀真言 乳海真言 四呪各二七遍</p>	<p>普伸拜献 第三十四 上来 加持既訖 变化已周 即世諦之莊嚴 成妙法之供養 慈悲所積 定慧所薰 以此香羞 特伸拜献 香羞拜献南無尽虚空遍法界十方三 世一切天主諸天衆 衆和 惟願慈 悲受沾供養 香羞拜献南無尽虚空遍法界十方三 世一切仙主諸仙衆 衆和 惟願慈 悲受沾供養 香羞拜献南無尽虚空遍法界十方三 世一切神主諸神衆 衆和 惟願慈 悲受沾供養 普供養真言 普廻向真言</p>
		<p>供聖廻向 第三十五</p>

<p>唱和偈畢念般若心經廻向廻向文同 前 我今敬設無遮會 以大願力普莊嚴 化供法味遍虚空 三界聖賢哀納受 願諸三界聖賢衆 一一莫退菩提心 從此法會結良緣 世世相逢為善友</p>	<p>宣密加持 第二十七 諸仏子 已為汝等 称說法竟 又慮汝等 從業道中来 結業牢固 更有冤債 未得解脫 再為汝等 誦 滅定業 解冤結 陀羅尼 次第加持 汝等諦聽 滅定業真言 唵 婆羅摩里多尼 娑婆訶 解 冤結真言 唵 三多羅 迦陀娑婆訶</p>	<p>宣密加持 第三十六 三世相逢為善友</p>	<p>宣揚聖号篇 第二十五 上来 迎請既周 供養方畢 今為汝等 諸仏子衆 称 五如来名号 及 五仏神呪等 次第宣揚 汝等諦聽</p>	<p>上来供聖 廻向已竟 今為汝等 生死二衆 称五如来聖号 及五仏神呪等 次第宣揚 汝等諦聽 蓋聞諸仏如来 三身果滿 万徳因円 障垢尽窳 生死永寂 故使 称念者增福益慧 聽聞者滅罪解冤</p>	
--	---	------------------------------	--	--	--

多宝仏正破慳貪妙色身能除醜陋広博身仏
 開咽喉無阻離怖畏仏今身意獲安甘露王如來能變酥配之味
 利濟極多 功德無尽
 伏請現前大衆各運慈悲同音唱和
 南無多宝如來
 曩謨婆葛嚩帝鉢囉 二合 部多阿囉但那他葛哆野
 諸仏子
 由称多宝如來名号
 及真言加持力故
 能令汝等 具足法財
 称意所須 受用無尽
 南無妙色身如來
 曩謨婆葛嚩帝蘇嚩婆野但他葛哆野
 諸仏子
 由称妙色身如來名号
 及真言加持力故
 能令汝等 免醜陋報
 諸根具足 相好円満
 南無広博身如來
 曩謨婆葛嚩帝尾補囉葛但囉野但他葛哆野
 諸仏子
 由称広博身如來名号

南無多宝如來
 南無縛阿婆帝 鉢囉部多 阿羅恒那 但他阿多野
 諸仏子
 由称多宝如來名号
 及 真言加持力故
 能令汝等 具足法財
 称意所須 受用無尽
 南無妙色身如來
 南無 縛阿婆帝 素魯婆野 多他阿多野
 諸仏子
 由称妙色身 如來名号
 及 真言加持力故
 能令汝等 免 醜累報
 諸根具足 相好円満
 南無 広博身如來
 南無 婆阿婆諦 尾甫羅 阿羅多野 多陀阿多野
 諸仏子
 由称広博身 如來名号

及真言加持力故
 能令汝等 咽喉寛大
 免飢虚報 自在充足
 南無離怖畏如來
 曩謨婆葛嚩帝阿佩孕迦囉野但他葛哆野
 諸仏子
 由称離怖畏如來名号
 及真言加持力故
 能令汝等 常得安樂
 永離驚怖 自在無畏
 南無甘露王如來
 曩謨婆葛嚩帝阿勿哩哆囉惹野但他葛哆野
 諸仏子
 由称甘露王如來名号
 及真言加持力故
 能令汝等 免針咽報
 得甘露味 成大菩提
 加持滅罪 第三十七
 切以
 式遵聖教 嚴列花筵
 請迎之理即周 供養之儀方展
 陳七種妙供已献曼拏羅前
 加一斛珍羞將給薛荔他衆
 尚慮汝等 針咽不下
 鼓膜難充 設得食之

及 真言加持力故
 能令汝等 咽喉寛大
 免 飢虚報 自在充足
 南無離怖畏如來
 南無婆阿婆諦 阿婆孕伽羅野 多陀阿多野
 諸仏子
 由称離怖畏 如來名号
 及 真言加持力故
 能令汝等 常得安樂
 永離驚怖 自在無畏
 南無甘露王如來
 那無 婆阿婆諦 阿摩里 多囉野
 野 多陀阿多野
 諸仏子
 由称甘露王 如來名号
 及 真言加持力故
 能令汝等 免 針咽報
 得 甘露味 成 大菩提

<p>變成火焰 煎腹燒心 難堪痛苦 故知 有善則有福 有罪則有障 不唯障於飲食 亦乃障於菩提 是故 先為汝等滅除罪障 次為加持甘露法食 准地藏菩薩滅決定業陀羅尼若有衆 生 広造無辺 惡業重罪 此陀羅尼 皆令除滅 伏請大衆 念七七遍 共滅罪障 同伸薦拔 唵鉢羅 二合 末哩駄頼莎賀</p>	<p>能令汝等 並得飲之 身田潤沢 業火清涼 曩謨蘇嚩婆耶但他葛哆耶怛的也他 唵蘇嚩蘇嚩鉢羅 二合 蘇嚩鉢羅 二合 蘇嚩莎賀 諸仏子次為汝等加持毘盧遮那如來 一字水輪觀陀羅尼能令汝等忝飲十 斛甘露法水 唵鉢羅鉢羅(一變?) 諸仏子次為汝等加持乳海陀羅尼化 此甘露法水為無量乳海 能令汝等 飽足法乳 塵翳消除 正覺円淨 曩謨三滿哆没駄喃唵鉢 羅</p>	<p>諸仏子 已憑大衆 念此真言 定業既除 冤結已解 今為汝等 加持大威徳変食陀羅尼能 化少成多 變無為有 普使現前 悉令充足 曩謨薩哩嚩但他葛哆嚩盧枳帝唵三 跋囉三嚩囉吽 諸仏子次為汝等加持甘露水陀羅尼 化此浄水為四大海水皆成甘露</p>	<p>諸仏子 已憑大衆 念此真言 定業既除 冤結已解 今為汝等 加持変食 甘露水 水輪觀乳海陀羅尼 化此飲食 便成真実 為 無量無辺 天仙美味</p>
<p>能令汝等 福悦為食 身田潤沢 業火清涼 變食真言 那莫薩婆 多陀阿多 婆魯其諦 唵 三婆羅 三婆羅 吽 施甘露水真言 南無 素魯婆野 多陀阿多野 多 野陀 唵 素魯素魯 婆羅素魯 婆羅素魯 娑婆訶 一字水輪觀真言 唵 鍍鍍鍍鍍 乳海真言 南無 沙滿多 没步南 唵鍍</p>	<p>諸仏子 已為汝等 誦大威徳陀羅尼 能変一食 以為無量無辺 天人之食 錢財駄馬數亦如之 仍又加持 甘露乳海 能化一滴 滿十斛餘 有情食之 便是天仙所饗 我今持此所呪 甘露法食 施仏子普令受用</p>	<p>諸仏子 已為汝等 誦大威徳変食陀羅尼 能変一食 以為無量無辺 天人之食 錢財駄馬數亦如之 仍又加持 甘露乳海 能化一滴 滿十斛餘 有情食之 便是天仙所饗 我今持此所呪 甘露法食 施仏子普令受用</p>	<p>諸仏子 已為汝等 誦大威徳陀羅尼 能変一食 以為無量無辺 天人之食 仍又加持 甘露乳海 能化一滴 滿十斛餘 有情食之 便是天仙所饗 我今持此所呪 甘露法食 平等惠施</p>

<p>汝等仏子 但依如来教旨 平等一觀 莫生高下之想 不得</p> <p>倚強凌弱 以貴賤賤 自食困他 使施不均 違仏慈濟 可以互相愛敬 無相憎嫉 各各諦聽法音 如法受食</p> <p>下有施食之偈大衆隨言後和 我今以此加持食 普施孤魂及有情 身心飽潤獲清涼 悉脫幽塗生善道 唵鉢囉 二合 步哆彌摩隸三囉囉 吽</p> <p>普供養真言 唵葛葛那三婆囉囉囉囉</p>	<p>汝等仏子 但依如来教旨 凡聖一觀 即無高下之想 不得</p> <p>以貴賤賤 倚強凌弱 使施不均 違仏慈濟 可以互相愛敬 無相憎嫉 各各諦聽法音 如法受食</p> <p>施 鬼食真言 唵 婆阿羅 步多？摩曳 三婆婆 吽</p> <p>普 供養真言 唵 我我那 三婆婆 婆阿羅或</p>	<p>諸仏子 已為汝等 施法食竟 復為汝等 稱說妙法 其妙法者 准金光明經云 昔流水長者子 為十千魚</p> <p>稱說十二因緣等法 其十千魚 聞是法 已 同日命終</p> <p>生切利天宮 化為十千天子 今亦為汝稱說 可以至心諦聽 至心請受 無明緣行 行緣識 識緣名色 名色緣六入</p>	<p>諸仏子 已為汝等 稱仏名竟 復為汝等 稱說妙法 其 妙法者 准 金光明經云 昔 流水長者子 為 十千魚</p> <p>稱說十二因緣等法 其十千魚 聞 是法 已 同日命終</p> <p>生 切利天中 化為十千天子 今亦為汝稱說 可以志心諦聽 志心請受 無明緣行 行緣識 識緣名色 名色緣六入</p>	<p>願聖垂恩 第四十一 唱和偈畢念般若心經三遍或念餘經 呪亦得</p> <p>願十方仏威神力 加持罽中殊勝香 令此香雲遍法界 普薰衆生皆解脫 願十方仏威神力 加持罽中清淨燈 令此燈光遍法界 普照幽塗皆晃朗 願十方仏威神力 加持罽中甘露水 令此甘露遍法界 普洒衆生除熱惱 願十方仏威神力 加持罽中無碍食 令此淨食遍法界 普饌衆生皆飽滿 願十方仏威神力 加持救苦大明經</p>	<p>願聖垂恩 第四十一 唱和偈畢念般若心經三遍或念餘經 呪亦得</p> <p>願十方仏威神力 加持罽中殊勝香 令此香雲遍法界 普薰衆生皆解脫 願十方仏威神力 加持罽中清淨燈 令此燈光遍法界 普照幽塗皆晃朗 願十方仏威神力 加持罽中甘露水 令此甘露遍法界 普洒衆生除熱惱 願十方仏威神力 加持罽中無碍食 令此淨食遍法界 普饌衆生皆飽滿 願十方仏威神力 加持救苦大明經</p>	<p>六入緣觸 觸緣受 受緣愛 愛緣取 取緣有 有緣生 生緣老死憂悲苦惱</p> <p>無明滅則行滅行滅則識滅識滅則名 色滅名色滅即六入滅六入滅則觸滅 觸滅即受滅受滅即愛滅愛滅則取滅 取滅則有滅有滅則生滅生滅則老死 憂悲苦惱滅</p> <p>十二因緣真言 唵曳達囉麼 二合 兮觀鉢囉 二 合 把囉 三 兮敦帝扇 四 ？ 他葛都 五 戲也囉撻 六 帝扇 左隸 七 尼嚕達 八 伊綰縛底 九 摩訶室哩 二合 麼拏 十 莎質</p>	<p>六入緣觸 觸緣受 受緣愛 愛緣取 取緣有 有緣生 生緣老死憂悲苦惱</p> <p>十二因緣真言 唵 曳達摩 兮都婆羅巴幹 兮敦 的山 答搭葛答 歇幹坦 的山珍 約 尼魯坦耶 哪叭諦摩葛窺囉 摩納耶莎訶</p>
---	---	---	---	---	---	---	---

「天地冥陽水陸齋儀」と「水陸無遮平等齋儀」

霜村觀真

<p>令此經声遍法界 普使聞者皆解悟 請聖受戒 第四十二 諸仏子上來 加持既周 布施已訖 想汝</p>		<p>慚二愧 慚者慚天 愧者愧人 此之二法 能令汝等 得無碍染 我今謹依 普賢所說 懺悔之偈 勸令懺悔</p>	
<p>離飢渴苦 發歡喜心 將受戒法先為汝等奉請諸仏菩薩作 和尚阿闍梨各各聞我音声隨言後和</p>		<p>各各聞我音声 隨言後和 一唱三和 我昔所造諸惡業 皆由無始貪嗔癡 從見口意之所生 一切我今皆懺悔</p>	<p>各各聞我音声 隨言後和 我昔所造諸惡業 皆由無始貪嗔癡 從身口意之所生 一切我今皆懺悔</p>
<p>一心奉請本師釈迦牟尼仏作檀中 和尚 一心奉請龍種上尊王仏作羯摩阿 闍梨 一心奉請當來弥勒尊仏作教授阿 闍梨 一心奉請十方現在諸仏作証戒阿 闍梨</p>		<p>懺悔真言 唵薩婆善陀菩提薩埵耶沙賀</p>	<p>懺悔真言 唵薩婆沒多 母地婆多野 娑婆 訶</p>
<p>一心奉請十方諸大菩薩作同学伴 侶衆</p>		<p>發弘誓願 第四十四 諸仏子 已為汝等 懺業障竟 今更為汝等 發四弘誓願 夫 發此願者 万行之因 能長慈悲 不斷仏種 大事成弁 所作充終 成道利生 皆因弘誓 故智度論云若能一發心言願我當作 仏滅一切衆生苦難 未断煩惱 未行難事 以心口重故 勝一切衆生 故今勸發 切須諦信 各各</p>	<p>發四弘誓願 第三十一 諸仏子 已為汝等 懺業障竟 今 更為汝等 發 四弘誓願 十方菩薩 因此明心 三世如來 因此成仏</p>
<p>懺除業障 第四十三</p>	<p>懺除業障篇 第三十</p>		
<p>諸仏子 已為汝等奉請諸仏菩薩作証明竟今 當懺悔夫懺悔者 懺名陳露先罪 悔名改往修來 除惡業障 成淨戒善 是故經歎 世二健兒 一不作罪 二能懺悔 汝等將欲懺悔 先潔其心 次肅其容 起二種心則無罪不滅何者二種心一</p>	<p>諸仏子 上來加持既周 布施已訖 想汝 離飢渴苦 得 喜悅心 將受戒法 先為汝等 懺悔多生罪垢 累却免愆</p>	<p>聞我音声 隨言後和 衆生無辺誓願度 煩惱無尽誓願断</p>	<p>聞我音声 隨言後和 衆生無辺誓願度 煩惱無尽誓願断</p>

<p>法門無數誓願學 仏果無上誓願成 願成就真言 唵母地唧哆母恒嚩 二合 那野弭 始吹呬</p>	<p>法門無量誓願學 仏道無上誓願成 願成就真言 唵 阿謨佉 薩婆多羅 娑多野 (拈香說教)</p>	<p>捨邪帰正 第四十五 諸仏子 已為汝等 発誓願竟 向下更有 三宝之各 難可得見 難可得聞 一歷耳根 河沙罪滅 可以 至心諦聽 至心諦受 南無仏陀耶 南無達摩耶 南無僧伽耶 三唱 諸仏子上来再三称說仏陀耶是其仏 一入於耳不墮地獄道達摩耶是其法 一入於耳不墮餓鬼道僧伽耶是其僧 一入於耳不墮傍生道</p>	<p>捨邪帰正篇 第三十二 諸仏子 已為汝等 発 誓願竟 復為汝等 受三帰依戒 所以者何 如造宮室 先固其基 欲受仏戒 先帰三宝 故今勸受 更勿異縁 各各聞我音声 隨言後和 帰依仏 帰依法 帰依僧 (三説)</p>	<p>帰依仏而足尊 帰依法離欲尊 帰依僧衆中尊 三称 如来至真等正覺是我等大師 我今帰依仏法僧宝 更不帰依邪魔外道 性願三宝慈悲 与我為師 哀捨摂受 慈愍故 三字三称 帰依仏竟 帰依法竟 帰依僧竟</p>	<p>帰依仏 而足尊 帰依法 離欲尊 帰依僧 衆中尊 從今已往 称仏為師 更不帰依 邪魔外道 性願三宝慈悲 哀捨摂受 慈愍故 (三字三説) 帰依仏竟 帰依法竟 帰依僧竟</p>
<p>三称 帰依三宝真言 曩謨囉怛那 二合 恒囉 二合 夜耶唵部劍</p>	<p>(三説) 帰依三宝真言 那謨羅 多那多羅野野 唵 卜合</p>	<p>釈相護持 第四十六 諸仏子 已為汝等 受三帰竟 復為汝等 受仏五戒 其五戒者是 一切如来 平等大戒 過現未來三世諸仏 皆因此戒得成正覺 欲受此戒 先須 冥心一境 能所兩忘 住寂滅際 即有無量諸仏 從頂門入 墮在藏識 我今 當為汝等 釈其戒相 各自澄心 諦聽諦受 每一戒相応問汝等 能持不汝等當 善答云能持合道場衆 皆当代彼至結問処 答云能持</p>	<p>釈相護持篇 第三十三 諸仏子 已為汝等 受 三帰竟 復為汝等 受 仏五戒 其 五戒者 是 一切如来 平等大戒 過現未來 三世諸仏 皆因此戒 得成正覺 欲受此戒 先須 冥心一境 能所兩忘 住 寂滅際 即有無量諸仏 從 頂門入 墮在藏識 我今 當為汝等 釈其戒相 各自澄心 諦聽諦受 (每一 戒相 応問汝等 能持否 汝等當 善答云能持 合 道場衆 皆当代彼至 結問処 答云能持)</p>	<p>第一条 淨戒不殺生 第二条 淨戒不偷盜 第三条 淨戒不邪淫 第四条 淨戒不妄語</p>	<p>第一条 仏戒不殺生 第二条 仏戒不偷盜 第三条 仏戒不邪淫 第四条 仏戒不妄語</p>

「天地冥陽水陸齋儀」と「水陸無遮平等齋儀」

霜村叡真

第五條淨戒不飲酒

是五戒相 從今生 至盡未來際身
於其中間 不得犯 能持不答云
能持

上來五支淨戒一 一不得犯能持不
答云能持 三稱

施戒真言

娑囉娑囉提葉叉吽唎陀野莎賀

得戒逍遙 第四十七

諸仏子

已說戒相 宜善護持 諸仏所宜
是正妙利 能消諸苦 能趣菩提

生人天因如由於此能懷正信是真福
田戒品已周故梵網經云持此戒時如
暗遇明如貧得宝如病者得差如因繫
出獄如遠行者得婦當知此即是衆等
大師若仏住世無異此也

修成十度 第四十八

上來

受戒円滿已竟向下

准大華嚴經

復令修習

十種波羅蜜多用資菩提根種

第五條 仏戒不飲酒

是 五戒相 從今生 至 盡未來
際身
於其中間 不得犯 能持否
答云能持 (三說)

持戒真言

唵 薩婆 娑羅提木叉 希里多野
娑婆訶

修行六度篇 第三十四

諸仏子

己為汝等 受 仏戒竟
從今己去是 如來位
是 真仏子 從 法化生
次為汝等 準 摩訶衍論

復令修習
六種波羅蜜多 用資菩提根種

一者布施波羅蜜多

二者持戒波羅蜜多

三者忍辱波羅蜜多

四者精進波羅蜜多

五者禪定波羅蜜多

六者智慧波羅蜜多

七者方便波羅蜜多

八者願波羅蜜多

九者力波羅蜜多

十者智波羅蜜多

依十獲果 第四十九

諸仏子若以円滿信解修於十種波羅

蜜多即能円証十信十住十行十回向

十地位等覺妙覺諸位法門所以

善財童子一生円曠超之功

地獄天子八難超十地之階

功德勝能 不可思議

其或 道力未壯 潛益退心

別施方便之門 直用無功之作

如起信論一具載不繁細準上來

已為汝等 生死二衆 一一成就

諸行法門 所作已弁 功德円成

欲助往生 須憑秘呪

曇謨阿弥娑婆之怛他葛哆也哆地也

哆阿弥唎都婆毘阿弥唎哆悉耽婆毘

了知心性無着 離 慳貪故

隨順修行 檀波羅密

了知心性無染 離 五欲故

隨順修行 尸婆羅密

了知心性無苦 離 憤怒故

隨順修行 厲提波羅密

了知心性無相 離 懈怠故

隨順修行 精進波羅密

了知心性常定 離 無飢故

隨順修行 禪定波羅密

了知心性体明 離 無明故

隨順修行 智慧波羅密

阿弥喇哆毘迦蘭帝阿弥喇哆毘迦蘭
哆迦弥賦迦迦那枳哆迦赫莎婆賀
或念尊勝亦得

觀行偈讚 第五十

諸法從本來常自寂滅相
仏子行道已來世得作仏
諸仏而足尊知法常無性
仏種從緣起是故說一乘
是法住法位世間相常住
於道場知已導師方便説
如有大經卷量等三千界
在於一塵内一切塵悉然
有一聽慧人正眼悉明見
破塵出經卷普饒益衆生
仏智亦如是遍在衆生心
妄想之所纏不覺亦不知
諸仏大慈悲令其除妄想
如是乃出現饒益諸菩薩
非識所能識亦非心境界
其性本清淨開示諸衆生
若於一切智發生迴向心
見心無所生當獲大名稱

迴向偈讚 第五十一

以我功德力如來加持力
及以法界力普供養而住
上供仏法僧中供天仙神
下及群生類莫不皆充遍

觀行偈讚篇 第三十五

諸法從本來 常自寂滅相
仏子行道已 來世得作仏
諸仏而足尊 知法常無性
仏種從緣起 是故說一乘
是法住法位 世間相 常住
於 道場知已 導師方便説
有一大經卷 量等三千界
在於一塵内 一切塵亦然
有一聽慧人 淨眼悉明見
破塵出經卷 普 饒益衆生
仏智亦如是 遍在衆生心
妄想之所纏 不覺亦不知
諸仏大慈悲 令其除妄想
如是乃出現 饒益諸菩薩
非識所能識 亦非心境界
其性本清淨 開示諸群生
若於一切智 發生迴向心
見心無所生 當獲大名稱

迴向偈讚篇 第三十六

以我功德力 如來加持力
及以法界力 普供養而住
上供仏法僧 中供天仙衆
下及群生類 莫不皆充遍

仏宝受我供住世莫還源
法宝受我供流通無間斷
菩薩受我供度生莫疲厭
二乘受我供迴心勿退轉

天仙受我供求仏常精進
人類受我供發大菩提心
三塗受我供息苦發道心
孤魂受我供稟氣？成形
上來供施福皆悉普迴向
社讓更延遠仏法永流傳
願以此功德普及於一切
我等與衆生皆共成仏道

化財受用 第五十二 加持錢山

諸仏子汝等
承宿善因 遇斯勝會
使飢臨而飽散 令裸至而衣還
仍儼滌於罪愆 及聞薰於戒法
此之重恩 浩難說尽
復以無上秘密之言加持冥財願此一
財為多財以多財為無尽之財
充塞虚空 遍周法界
平等而施之無竭 清淨而用之不窮
下有化財之偈 大衆隨言後和
願諸仏以神通力 加持冥財遍法界
願此一財化多財 普施鬼神用無尽
曩誤三滿哆沒駄喃跋遮那毘盧枳帝
沙賀

仏宝受我供 住世莫還源
法宝受我供 流通無間斷
菩薩受我供 度生莫疲厭
二乘受我供 迴心勿退轉

天仙受我供 求仏常精進
人類受我供 速發菩提心
三塗受我供 息苦發道心
孤魂受我供 稟氣得成形
上來供施福 皆悉普迴向
社讓更延遠 仏法永流傳
願以此功德 普及於一切
我等與衆生 皆共成仏道

敬伸奉送 第五十三

上來

法筵告罷 仏事云周

欲伸發遣之儀 須謝降臨之慶

茲者

檀灰已燼 蜜？將殘

霞開夜以漸昇 星疎空而半減

伏願

幡花分道俱還起於淨筵

樓閣乘空並却歸於真界

我今散花普散聖凡有偈當以宣揚請

諸大衆異口同音隨我今說

我今持呪此色花 加持願成清淨故

一花供養我如來 受花却掃清淨土

大悲福智無緣主 散花散普十方去

一切聖賢盛啟空 散花普願啟未路

我如如來三蜜行 已作上妙利益竟

惟願天仙星宿等 空地山河主執神

焰魔羅界諸王臣 靈亡孤魂泊有情

地獄惡鬼及傍生 咸願身心得自在

憑斯勝善獲清涼 愍希俱得不退轉

我於他日建道場 不違本誓？未起

唵囉穆叉目

普伸廻向 第五十四

奉送六道篇 第三十七(門外行)

諸仏子 上來鴻儀既畢 能事已円

我今更為汝等 說 一則法語

切須採聽 慎莫輕忽 一切衆生

本具性徳 乃緣起一妄念

淪沒業坑 非人惱汝 而汝自惱

但知如是 如夢一覺 願 天仙則

省 貪染而發菩提心

人道則 滅 三毒而頓發靈機

修羅則 捨 嗔怒而坦和慈忍

畜生則 離 癡暗而空諸罪性

餓鬼則 懺 業因而善脫飢虛

地獄則 悔 前非而遠離燔剝

孤魂則 具 形質而軼生淨域

然後 普將報徳之心

莫忘含恩之地

我仏有 奉送陀羅尼 謹當宣念

善保雲程 伏惟珍宝

奉送真言

唵 婆阿羅 沙多木叉木

処世間 如虛空 如蓮花

不着水 心清淨

超於彼 稽首礼 無上奪

帰依仏 帰依法 帰依僧

上來帰依三宝竟 化財功德

奉送聖凡雲程

滿十方界(衆知) 和南聖衆

水陸無遮平等齋儀 終

追記

『釈門儀範』編者による「水陸無遮平等齋儀」の韓国語序文の訳を掲載する。儀範編輯の際に付したものとと思われる。『事物起原』第八巻による梁武帝の水陸説話と、僧英禪（道英のことか）による水陸会施行が語られる。更に、蘇軾の水陸法像贊、楊鏐の儀文が紹介されるが、志磐、株宏らの重訂の記事は無い。また韓国における水陸会の略史が付記される中、高麗光宗二十一年とは西暦九七〇年であり、このことは、志磐以前に韓国において水陸会が施行されていたことを示す。

なお、日本語への訳出は、綜合佛教学研究所研究生 柳嬉承氏に全面的にお願いし、また一部の語句については同研究所客員研究員 韓京洙（海雲）氏にご教示いただいた。紙面を借りて御礼申し上げます。

〈日本語訳〉

第四 水陸齋儀

締起序言

為汝宣揚勝会儀

阿難創設為神飢

若非梁武重陳説

この讚仏歌の文章は、水陸縁起の綱領が述べられている。この文章を詳しく説明したのが事物起原第八卷である。仰せられるには、梁武帝が法雲殿に暮らした時、ある日の夢に神僧が現れて、「六道四生の苦痛が無量なのに、なぜ水陸齋を開いて法界のあらゆる靈を広く救わないのですか。あらゆる功德の中で水陸齋が第一である」と話した。武帝は夢が覚めた後、この事を不思議に思い、翌日、あらゆる僧侶を招いて問うが、誰もわからなかった。唯、誌公法師のみが武帝に「広く仏經を調べてお読みになると、必ずその因縁をお分かりになります」と奏上した。武帝はこれを正しいとお考えになり、大藏經をお持ちになって法雲殿に積んで、昼夜にお読みになつてみると、その中に、仏説救護焰口餓鬼陀羅尼經と仏救面燃餓鬼神呪經とを発見された。その文の中に「阿難尊者が恒河の岸で焰口餓鬼に会うと怖畏心が生じた。このことを世尊にお話しになると、世尊は即時に陀羅尼をお唱えになつて焰口を救護し、平等に斛食を施した」と書かれていたのを武帝はご覧になり、これを根拠として水陸儀文を自ら撰し、三年をかけて完成した。ある日の夜、儀文を自ら掲げ、あらゆる蠟燭を消した後、仏前に話すのに、「もし、この儀文の理趣が聖、凡いずれでも理屈に合うならば、一度礼拝する間に蠟燭がひとりどりに灯るようして下さい。もし間違つた点があるならば、蠟燭は消したままにしておいて下さい」と話し終わつて、一度礼拝をすると、あらゆる蠟燭が灯り、二度礼拝すると宮殿が震動し、三度礼拝すると天から四花が撒かれて降つてきた。武帝がこれに感激して、天鑑四年（五〇四）二月十五日に金山寺において儀文を読んで齋を設けた時、武帝は自ら堂にお上がりになつて五体投地で礼拝をして、僧佑律師によつていろいろな人々の前で法文を朗読させた。これが水陸齋の儀式を行うようになったきっかけである。

その後、唐の咸亨年間に西京の法海寺の僧英禪の夢の中で、泰山府君に頼まれ法門を説明して帰り、方丈に一

人で座っていると、ふとある人が現れて、「私はこの前泰山府君の処所で僧に真心をもって仕えました。聞いてみると、世の中に水陸齋というものがあつて、誠に幽冥に利益するそうです。その儀文は梁の武帝の選集で、現在、大覚寺にいる呉の僧儀齋が得たそうです。願わくば、尊師がその儀文を得て、法になうよう修設して下さい」と告げた。英禪が承諾し、大覚寺でその儀文を得て来て、その月の十五日に齋を設けると、前に来た人がまた数十人の集まりを連れて来て、謝礼して話すことには、「仏弟子の私は秦の莊襄王であります。」そして（連れてきた）人々を指しながら、「この人達は范雎、穰侯、白起、王翦、張儀、陳軫等であります。皆秦の臣下として一緒に罪を犯して陰府に幽囚となつていたのです。前に、梁の武帝が金山寺で齋を設けた時、前代の紂王の臣下達は皆罪を免れました。その時、仏弟子の私も暫く苦痛から逃れるようになりましたが、獄政が決まつていないので解脱を得られませんでした。今度、齋を行つて懺悔し私とこの臣下達と、列国の君臣達とが皆、法力で人間としての生を得られるようになりました」と言つていきなり見えなくなつたのである。

その後、英禪法師が恒に水陸齋を行つたので、その法が世の中に広がつて、宋の時、蘇軾（東坡）は水陸法像贊を作り、熙寧年間に東川出身の楊鏐が儀文三卷を再び作り、我が国では高麗の光宗二十一年に葛陽寺に水陸道場を建て、宣宗は普濟寺に水陸堂を建て、忠穆王も水陸齋を行い、李太祖も津寛寺、見岩寺、釈王寺でこの齋を行つた。その後、水陸齋儀式が段々衰えて薄れていったが、絶えることなく続けられた。さて、水陸というのはどのような意味であろうか。仙人は（淨い）流水で食べ物を得て、鬼は淨地で食べ物を得るといふ意味である。伽藍の中でも、また高い山の頂上でもその儀式を行えば水陸齋なのである。

そうであるから、水陸齋儀式を行つた梁の武帝も金山寺で、高麗の高宗も帰法寺で、朝鮮の太祖も津寛寺で行つたのである。今日、水陸齋は河や海で行つて、水陸儀文は読まないで常住勤供等で代用するというが、これを高見と言えるのであろうか？

ある人は河や海で舫を繋いでおいて、その上で齋を行うが、これはどんな理由であろうか。これは水陸で水字のみ重大視し、本当の孤魂を慰勞する陸字は等閑視したのである。また魚を放生する齋を行うことも水陸のみを濫用したのである。そうすると、本当の仏の冥加を蒙る儀文はどんなものであるか。以下の諸篇を看ていただきたい。

編者付記

水陸齋作法順序

転鐘五下の後、大衆が着席して、鳴鉞一宗後に喝香（大衆一片没価香云云）（一五五項）と燃香喝と灯偈と三頂礼を行った後、饒匠鳴鉞して合掌偈と告香偈を唱えた後に第一設会因由篇に入ること。